

山車飾人形

最近では「祭礼」という言葉よりも「フェスティバル」の方が身近かになりつつあるのではないだろうか。年中行事が少しずつではあるが消え去ろうとしているのに反して、新しいイベントとしてのフェスティバルが生まれているのが現代の特徴のひとつなのかもしれない。

さて、ここで紹介するのは幕末から明治初期にかけて函館八幡宮祭礼に使われたと伝えられる山車飾人形である。現存するのは人形の首が主で、弘化4年(1847)に京都で造られたという箱書のある神功皇后と武内宿弥のものである。首以外の部分は明治12年(1879)の大火で焼失したという。

八幡宮の祭礼については、安政4年(1857)の箱館夜話草によれば「大町蛭子、内潤町神后三韓攻船山、弁天町蛭子船山、山之上町大黒山など引渡す。祭礼の行粧実土地に過たる美観なり」とあるように4台の山車が繰り出していた。

本資料は末広町会館に保存されていたが、内潤町は末広町の旧地名である。そして、内潤町には杉浦嘉七や藤野喜兵などの有力商人達が多く住んでいた所でもある。祭礼については多額の費用が必要であった。松前の七社祭礼での山車の費用は栖原角兵衛、伊達屋林右衛門などの場所請負人が負担したという。

箱館での祭礼銭は各町会で積み立てをして支出にあててはいるが、それでも不足の場合は表通りに面した有力商人に負担してもらったという。これら八幡宮祭礼を考える時、町衆のエネルギーとともに函館商人の経済力を想起させられるのである。

〈学芸員：根本 直樹〉



当時の山車飾人形

昭和62年度特別展 「開港への序曲」から

今年度の特別展は、先に共催したことのある社団法人霞会館（旧華族会館）と新たに鳥取県立博物館・久米美術館（東京）の2者を加えて、4者により東京・函館・鳥取の3会場で開催した。

内容は、嘉永6年（1853）ペリー艦隊が浦賀に来航した前後をまとめた「彼等は来た」、来航してからの日本の対応ぶりを窺わせる「国難未曾有」、翌年の日米和親条約の締結による「国開かれて」、その他当時の公家大名家が入手した黒船来航の絵図などを展示した「黒船来航譜」と4つのコーナーに分けて展示した。当然アメリカとロシアに係わる資料が中心の展示であった。

展示資料は、全国の主要博物館・図書館・旧公家大名家から借用し、市立函館図書館と市立函館博物館の所蔵資料も多く出品した。

函館会場の五稜郭分館は、昭和62年7月14日から8月30日まで開催したが、初日には開会式が行われ、



オープニングセレモニーで挨拶する木戸浦市長
（中央・竹田霞会館理事長）

霞会館理事長竹田恒徳氏をはじめ役員・会員が出席、函館市から木戸浦隆一市長、安島進教育長らが列席して、両主催者の挨拶ののち霞会館理事長・函館市長・函館市教育長の3人によってテープカットが行われた。



観覧する列席者

会期中の観覧者数は13,885名で昨年度の特別展より下回ったが、函館でこれだけ質の高い展覧会を開催できたことは、関係者の協力があったことに併せて函館の潜在する文化の高さによるものであり、また歴史の深さと資料の豊富さに起因したものといえる。

先人たちが調べ築き上げた函館の歴史は、まだまだ研究しなければならぬことが多く残されている。失われた資料はどうしようもないが、まだ発掘されていない資料もあることだろう。また観点を変えて資料を見直すときと何か新発見があるように思われる。今後も見ごたえのある特別展を開催するため、長期計画で調査研究を推し進めたいと思っている。

（学芸員：岡田 一彦）

楽しく学ぶ科学教室へ ～創造性豊かな心を育てる～

現在、カルチャー教室がおおはりである。ゴルフ、書道、パソコン・ワープロ、パレエ、料理など様々な教室があちこちで開かれているが、これは大人、子供に関係なく余暇に何かを学びたいという人が増えていることの現れであろう。また、この種の教室が比較的少人数で講義形式ではなく、参加者が作る、使う、体験するなど楽しみながら学べるということも人気の高い理由の一つであると考えられる。

さて、当館の科学教室は、少年少女の科学に対する探究心を育てることを目的に毎年開催している。小学生を対象とした科学的分野の教室としては市内で唯一のものだということもあり、大変好評を得ている。

急速な科学技術の進歩に対応し、また函館が北方圏型テクノポリス建設を目指しているという特色もふまえ、未来を担う少年少女の「学ぶ」気持ち、「探究」する気持ちを大切に、科学する心を培い、創造

性豊かな心を育てるために博物館も科学教室を一層充実させ、魅力あるものとしていくように心がけている。

こうしたことから、4月から始まる昭和63年度科学教室は、講座内容を増やし、人気の高い天体観測をはじめ、観察と標本の作り方を予定している植物観察・昆虫観察会などで積極的に視聴覚機器等を活用してより内容を充実させ、さらに新たに「工作」の分野を加えて2講座増の12講座の開催を予定している。

学校教育との関連も考慮した上で、子供たちが見る、聞く、触れる、作るなど楽しく学べる魅力ある教室として、少年少女の生涯学習につながる夢を育むよう努めてゆくつもりである。さらに今後は固定メンバーによる科学クラブを設け、より多くの子供が一層興味をもって参加できるよう進めていきたいと思っている。

（学芸員：尾崎 渉）

事業報告 (62.1.1~62.12.31)

◎資料管理・整理・保存

○受入

- ・二重マント 1件
【佐藤輝男氏寄贈・函館市元町22-14】
- ・外国製レール他 14件
【太田幸夫氏寄贈・函館市時任町1-501-206】
- ・男物オーバー 1件
【秋山始一氏寄贈・函館市若松町30-2】
- ・こだし 1件
【角田利雄氏寄贈・函館市弥生町19-19】
- ・午砲 2件
【田畑昌子氏寄贈・函館市万代町14-31】
- ・弾丸 1件
【道辻 適氏寄贈・函館市元町3-9】
- ・御神燈の柱 1件
【網塚忠輝氏寄贈・函館市本町36-32】
- ・軍隊漫画絵はがき他 4件48点
【近藤 元氏寄贈・函館市柏木町6-13】
- ・煙草定價表他 3件
【伊藤ヨシ氏寄贈・函館市末広町20-15】
- ・書他 2件
【若狭天真氏寄贈・函館市宝来町6-9】
- ・椅子他 5件7点
【渡辺節子氏寄贈・函館市湯川町2丁目3-22】
- ・硝子ビン他 36件
【和田兼吉氏寄贈・函館市中島町2-20】
- ・鎖錠 1件
【函館市立湯川小学校寄贈・函館市湯川3丁目42-1】
- ・酢徳利他 6件
【森武サヨ氏寄贈・函館市柏木町16-11】
- ・伊庭八郎像写真 1件
【古田中美那氏寄贈・東京都太田区北千束2-42-3】
- ・幼名札他 3件
【伊庭つる氏寄贈・東京都品川区東五反田1-2-43】
- ・会席膳 1件5点
【津幡 正氏寄贈・函館市千代台町14-10】
- ・函館中学校授業料納額告知書 1件12点
【高橋 実氏寄贈・札幌市中央区北4条東2丁目】
- ・日時計(模型) 1件
【ヤママウ時計宝飾店寄贈・函館市本町6-14】
- ・書 1件
【若狭天真氏寄贈・函館市宝来町6-9】
- ・三つ重ね盃 1件
【井口久治氏寄贈・函館市銭亀町119】
- ・写真機 1件
【平野正二氏寄贈・函館市谷地頭町36-4】
- ・煙草入れ他 2件
【小西 光氏寄贈・函館市鍛冶1丁目26-8】
- ・焼夷弾筒 1件
【市立函館図書館保管替・函館市青柳町17-2】
- ・田家家資料 1括
【安部昭子氏寄贈・亀田郡七飯町字中野13-10】

- ・長持 1件
【前側利松氏寄贈・函館市豊川町15-11】
- ・ラジオ他 18件
【津幡 広氏寄贈・函館市千代台町14-10】
- ・絆纏 1件2点
【品川ハツミ氏寄贈・函館市末広町21-23】
- ・写真他 11件
【黒崎敏雄氏寄贈・函館市弥生町9-8】
- ・昆虫 1括
【堀 和吉氏寄贈・函館市駒場町7-14】
- ・ウミガメ 1件
【大田百合子氏寄贈・函館市亀田港町58-8】
- ・氷かきかん 5件31点
【計良芳枝氏寄贈・函館市本町21-6】

○整理

自然科学資料(植物)整理
考古資料整理

○保存

ばく涼

本館 10月5日~10月26日
分館 10月26日~11月3日

○貸出

- ・道立函館美術館常設展示「道南ゆかりの作家」コーナー 1件 (12月25日~3月6日)
- ・道立函館美術館常設展示「道南ゆかりの作家」コーナー 1件 (3月2日~4月3日)
- ・函館市北洋資料館常設展示 25件 (4月1日~3月31日)
- ・旧函館区公会堂常設展示 2件 (4月1日~3月31日)
- ・道立函館美術館常設展示「道南ゆかりの作家」コーナー 1件 (5月13日~6月30日)
- ・道立函館美術館常設展示「道南ゆかりの作家」コーナー 1件 (6月30日~9月10日)
- ・NKK放送番組「につぼん列島ただいま6時」 1件 (6月23日~25日 NHK函館放送局)
- ・特別展「日本海-空白の中世蝦夷世界を探る-」 3件 (6月23日~9月7日 北海道開拓記念館)
- ・'87ハイテックフェスティバル 18件 (10月1日~5日 北海道中小企業家同友会函館支部)
- ・道立函館美術館常設展示「道南ゆかりの作家」コーナー 1件 (9月8日~11月8日)
- ・道立函館美術館常設展示「道南ゆかりの作家」コーナー 1件 (11月7日~12月26日)

◎展示

○特別展

開港への序曲(分館 7月14日~8月30日)

○企画展

ひな人形展(資料館 2月22日~3月3日)

新収蔵資料展（本館 4月25日～5月27日）

○常設展

展示替（本館10月）

◎教育普及

○市民講座（7回 137名）

親と子の土器をつくる会（6月7日）

アイヌの技—ごさ織る（6月27日）

特別展を観覧する会（8月1日）

磯の生物観察会（8月15日）

外国領事と史跡めぐり（10月3日）

わらじ作りをつくる会（10月4日）

しめなわをつくる会（12月13日）

○科学教室（9回 308名）

春の星座観測会（5月16日）

植物野外観察会（5月17日）

夏の星座と七夕観測会（7月4日）

昆虫野外観察会（7月26日）

市電のしくみと駒場車庫見学会（7月28日）

鉄道車輛のしくみと函館運転所見学会（8月4日）

秋の星座観測会（9月19日）

天体望遠鏡の使い方と月の観測会（10月3日）

冬の星座観測会（11月14日）

○出版

2月24日 児玉コレクション目録Ⅱ「アイヌ民族資料編」発行

3月15日 館報「サラニップ」No.26 発行

3月31日 蔵品目録6「動物篇Ⅱ」発行

○調査・視察・団体観覧

2月26日 ソ連科学アカデミー民族学研究所スペワ
コフスキー氏資料調査

3月8日 (社)創玄書道会副理事長外視察

3月14日 苫小牧市博物館協議会委員一行視察

3月18日 小樽市博物館事務長視察

3月20日 西ドイツ・ボン大学日本文化研究所長クラ
イナー氏資料調査

3月24日 青森県埋蔵文化財調査センター山口氏資料
調査

3月26日 梁川町教育委員会一行視察

5月5日 大阪外国語大学松下助教資料調査

5月6日 スコットランド大学ロイヤル博物館ウィル
キンソン女史視察

5月13日 青函市民文化交流婦人視察団視察

7月4日 四日市市議会議員一行視察

7月8日 飯田市議会議員一行視察

7月14日 (社)霞会館理事長外視察

8月28日 国立科学博物館松隈氏資料調査

9月5日 福島県立博物館学芸課長視察

9月11日 尼崎市議会議員一行視察

9月29日 行田市議会議員一行視察

10月13日 大倉集古館大倉学芸員視察

10月24日 ソ連歴史研究所長ジェリビアンコ氏視察

11月12日 神奈川県立金沢文庫長視察

○写真撮影・提供・転載許可

博物館資料の写真撮影など 55件

○実習生受入（9名）

北海道教育大学函館分校 9月8日～9月29日 9名

◎会議出席

○博物館大会

北海道博物館大会に加納館長出席

（6月12日～13日増毛町）

◎人事移動

本庄忠一主事退職（3月31日付）

金田俊男主事発令（5月25日付）

寺分由紀子臨時職員採用（6月2日付）

三浦真紀子臨時職員採用（6月2日付）

入館者統計

昭和62年常設展示（62.1.1～12.31）

月別	本館	分館	資料館	計
1	146	492	197	835
2	211	1,418	588	2,217
3	647	1,211	1,072	2,930
4	(企画展)579	(休館)	534	1,113
5	(企画展)－	14,474	2,414	16,888
6	3,493	9,214	1,596	14,303
7	1,370	(特別展)－	1,755	3,125
8	3,097	(特別展)－	4,151	7,248
9	2,695	6,189	2,618	11,502
10	531	6,517	1,380	8,428
11	983	2,515	977	4,475
12	313	1,000	423	1,736
計	14,065	43,030	17,705	74,800

昭和62年度特別展 五稜郭分館（7/14～8/30）

月別	個人	団体	計
7	3,093	325	3,418
8	10,243	224	10,467
計	13,336	549	13,885

昭和62年度企画展 博物館本館（4/25～5/27）

	個人	団体	計
4	382	0	382
5	4,231	3,884	8,115
計	4,613	3,884	8,497

—あ と が き—

※もうすぐ青函博覧会が開催される。ぜひこの機会に、函館の文化を自慢できる資料を多く所蔵する当館にも足を止めて欲しいと願っている。

Hakodate City Museum News

SARANIP—サラニップ—No.27 1988. 3. 15発行

編集・発行 市立函館博物館（TEL.0138-23-5480）

北海道函館市青柳町・函館公園内（〒040）